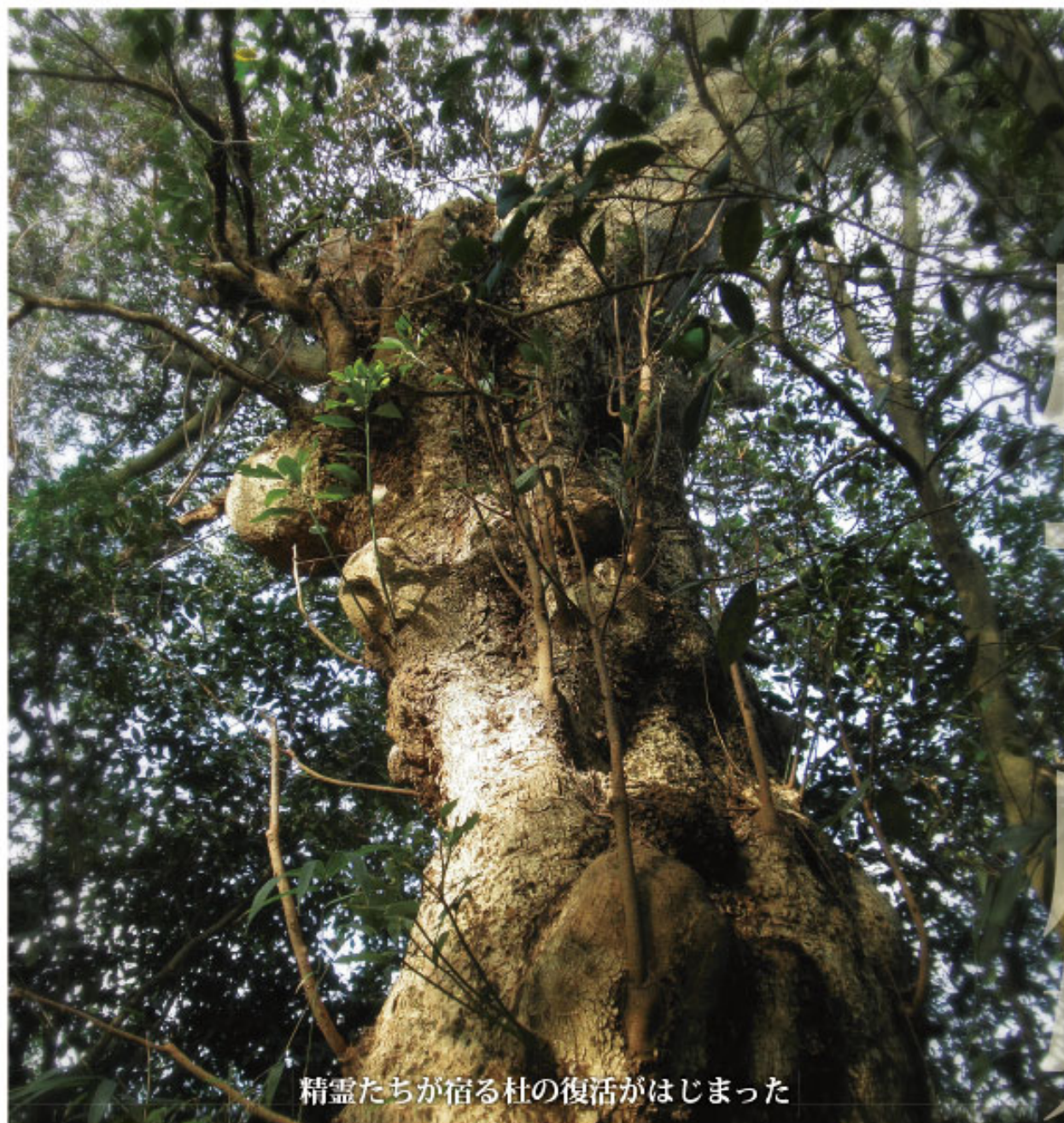


ドキュメンタリー映画

野澤和之監督作品

大飯原子力発電所と聖なるもりが存在していた

そこには山を挟んで



精霊たちが宿る杜の復活がはじまった

原子力と原始

祖先を祀る日本の聖域

にそのもり

# ニツの杜



主演:中谷弘三/渡辺淳

監督:野澤和之 プロデューサー:中村孝 特別協力:吉田正紀 協力プロデューサー:伊藤義持 撮影協力:高橋祥孝 編集:平井将人 音効:合田享生 MA:竹山公一郎

作曲:斉藤GO 挿入歌演奏:なかむらたかし(尺八)/斉藤GO(ギター) エンディングテーマ:Last Summer 演奏:NadiNada 榎本真弓(ピアノ)/栗山豊二(パーカッション・ヴィブラフォン)

斉藤GO(ギター) 2016/日本/16:9HD/ステレオ53分 製作・配給:ニツの杜製作委員会

●問い合わせ:nisonomori@casamoz.org ©2016ニツの杜製作委員会



## 精霊達が宿る杜の復活

福井県大島半島に「ニソの杜」と呼ばれる聖地が点在する。毎年十一月には、祀りが行われて大切にされてきた。しかし、一九七〇年代原子力発電所が建設されると人々の生活が一変。農業と漁業を営み、船移動の生活から、道路が整備され発電所内の仕事で給料をもらう生活となった。しだいに、ニソの杜への信仰が薄れ、杜は荒れ果てていった。二〇一三年、杜の復活を行うひとりの男が現れた。ニソの杜の再生には、現代文明を問う深いメッセージが隠されていた。

## ニソの杜

福井県大島郡おおい町大島半島に点在する杜。その杜を聖地とする信仰があり、大島を開拓した24の先祖が祀られているといわれている。毎年、11月22日23日に祀りが執り行われる。祀りの日以外は決して近づいてはならないとされている。タモや椿などの照葉樹が特徴的に見られ、杜の木を切ると不幸がおとずれるという。日本に現存する数少ない聖地で、今その存続が危ぶまれている。

## 大飯原子力発電所

福井県大島郡おおい町大島に甲子園球場の約50倍の広さ188万平方メートルの敷地に4つの加圧水型軽水炉がある。送電線は、50万ボルト。1号機は1972年から着工が始まり、79年に運転開始。4号機は、1987年着工開始で1993年から運転開始。燃料は、いずれも低濃度2酸化ウラン。関西電力が運営している。

三浦 佑之 (みうら すけゆき) 立正大学教授 古代文学研究者

日本海の沿岸を歩いていると、タブノキを中心としたうっそうとした樹林によく出会う。そこはたいてい岬になっており、木々に囲まれて古い社が建っている。集落を護る神は、海のかなたからやってくるのか、それとも深い杜の奥にいますのか。照葉樹林に覆われた大島半島の「ニソの杜」にいます祖霊も、周囲がどのように変容しようとも、村人たちを護り続けていますのだということを、この作品は教えてくれる。今は目立つ白いドームも、いつの日か杜に覆われてしまうのだろうと思う。

製作協力:中島哲演 studio CATS 一般社団法人 カーサ・モーツァルト 宣伝ちらし:井上正

監督:野澤和之 プロデューサー:中村孝 ©2016ニソの杜製作委員会

**上映会** を開いてみませんか? お問い合わせは: [nisonomori@casamoz.org](mailto:nisonomori@casamoz.org) 電話: 03-3402-1756